

# IAMAS 出前教室

Vol.15 ～「シンボルとしてのこども」～

## 出前教室とは...

領家町にある IAMAS の教員や学生が、毎月 1 回大垣のまちに出て、市民のみなさんに向けて行うレクチャーや公開ゼミのことです。

※IAMAS(イアマス)とは、情報科学芸術大学院大学と岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーの総称です。

こどもは文化のなかでひとつのシンボル(象徴)として機能してきました。あるときは大人への未来型であったり、またあるときは大人をおそれさせる脅威として。こどもという存在がもっているシンボリックイメージを民俗学や宗教人類学の立場から俯瞰し、とくに日本固有の信仰である水子供養について考察します。

## 講師プロフィール

小林 昌廣(こばやし まさひろ) 情報科学芸術大学院大学スタジオ4 教授。芸術生理学者。医学・芸術・哲学を頂点とする三角形の中心に「身体」を指定して、さまざまな身体表現の研究・批評、医療福祉分野における芸術表現行為の応用、さらに舞台芸術のプロデュース等を行う。主な著書に『病い論の現在形』『「医の知」の対話』『臨床する芸術学』等。最近の関心は、病院空間にアートを紹介させる方法の開発、暗黒舞踏と地唄舞の比較研究、落語の身体論的研究等。好きなダンサーは伊藤キム、好きな噺家は古今亭志ん朝。

日時 平成 21 年 8 月 27 日 (木)

19:00~21:00

会場 大垣市多目的交流イベントハウス

(大垣市郭町 2 丁目 28 番地)

定員 50 名程度 ※参加無料/予約不要

対象 一般、学生の方

主催 情報科学芸術大学院大学

メディア文化センター (CMC)

TEL 0584-75-6606

FAX 0584-75-6604



次回予定 平成 21 年 10 月 1 日 (木)

Four o'clock  
designed by macoto murayama